

持続可能な一貫教育をすすめるための工夫と校長の役割

富 樫 朗（酒田市立泉小学校）

1 はじめに

9年間の義務教育を通して、子どもたちに互いの人格と個性を尊重する感性を育むとともに、将来においてよりよい社会を創り上げる資質・能力の育成が求められている。

そこで、飽海小学校長会では、教育委員会と連携しながら小中学校の連続性を重視し、組織的な取組の推進における校長の役割を探っていきたく考えた。

2 研究の概要

義務教育9年間を見通し、小学校、中学校の役割、児童の発達段階、教員の特性等をふまえ、無理のない持続可能な連携・接続を校長としてどのように推進するかを研究する。

<研究項目>

- (1) 小中一貫教育推進上の課題の洗い出し
- (2) 各中学校区における小中一貫教育の集約
- (3) 課題解決のための校長の役割
- (4) 小中一貫教育推進の成果と課題の集約

3 研究の内容

- (1) 小中一貫教育推進の課題の洗い出し
 - ① 小中の壁について
 - ア 中学校から見た小中一貫の課題
 - ・多忙で小学校への意識を向けられない。
 - ・免許外の教科では、意見を言いにくい。
 - イ 小学校から見た小中一貫の課題
 - ・生徒の学力や生徒指導上の問題について関心が低い。
 - ・高学年の学力について低学年時の担任も責任を持つ意識が必要である。
 - ② 推進しながら見えてきた課題
 - ア 個々のモチベーションを高める
 - イ 小一小、小一中の連携枠組みを作る
 - ウ 負担感を減らす
- (2) 「つなぐ」をキーワードにした取り組み
 - ① 教職員をつなぐ実践
 - ア 中学校区で全教員が参加の小中一貫推進会議を立ち上げる。

イ 校務分掌で同一の役割を担っている教員や同一学年の担任同士で研修を深める。

② 児童生徒をつなぐ実践

ア 生徒が生徒会の取り組みや学習システムについて児童に指導する。

イ 特別支援学級間の交流により、中学進学についての不安感を軽減する。

③ 地域・保護者をつなぐ実践

ア 学校統合、学区再編地区で、家庭教育の新しいスタンダードを構築する。

(3) 校長としての役割

- ① 課題を明確にし、コンセプトを定める。
- ② 推進の全体を俯瞰し、価値づけを行う。
- ③ 各中学校区における実践を共有し、行政にも働きかけながら更なる推進を図る。

4 成果（○）と課題（●）

- 「学び合い」をキーワードにした授業改善が小中で広がることによって、小中で一貫した子どもの学びの姿を共有することができた。
- 小中の垣根を越えたつながりの強化により、児童にとって生徒がめざすべき姿として意識されるとともに身近な存在になってきた。
- 学校だけでなく、地域全体としての教育環境に対する意識改革が図られた。
- 新たな課題が山積する中、小中一貫の取り組みが有効かつ効果的な取り組みであることを検証しながら情報発信することが必要である。

5 提 言

校長は、不登校、学力、進路など中学校、高等学校で顕在化する問題を見越して、小中一貫教育の重要性を認識することが必要である。実施にあたっては、校長は組織など大枠を定めたら、細部は各担当に委ね、評価・価値づけを行いながら、マネジメントすることが重要である。